

## 令和5年度第1学期終業式式辞（放送）

おはようございます。

令和5年度第1学期終業式、けじめの日です。今日は久しぶりに大教室で穎明館の全生徒に話をする事ができると思って準備をしていました。しかし感染症がまた少し広がっているという状況をふまえて放送実施といたしました。放送でもしっかりと耳を傾けてほしいと願っています。

皆さんは、このコロナ禍での3年半、分散登校やオンライン授業など、さまざまな制約の中で学習に取り組まれたと思います。その中でも皆さんは自分の夢や目標に向かって、一所懸命に努力されたことでしょう。私は皆さんの成長を誇りに思います。この1学期の間も、皆さんは様々なことを学びました。知識や技能だけでなく、コミュニケーションや協働、自己管理や問題解決など、21世紀に必要なスキルも身につけました。また、学校行事や体験学習、クラブ活動など、学校生活の多くで経験を積みました。それらの経験は、皆さんの人間性や個性を豊かにしました。

しかし、学びや成長は決して終わりません。これからも、皆さんは新しいことに挑戦し続ける必要があります。世界は日々変化し、未来は予測できません。だからこそ、自分自身を見つめ直し、自分自身を高めることが大切です。自分の強みや弱みを知り、自分の興味を広げ、自分の可能性を信じてください。そして、自分だけでなく、周りの人や社会にも目を向けてください。他者と共感し、協力し、貢献することができる人間になってください。

皆さんはそれぞれに素晴らしい才能や個性を持っています。私は皆さんがそれらを存分に発揮し、自分らしく輝くことを心から願っています。この夏休みは、十分に休養をとりつつも、自分の夢や目標に向かって努力する時間にしてください。そして、2学期に元気に会えることを楽しみにしています。

さて、穎明館生の皆さん、ここまでの式辞はどうですか。実は、これは最近話題のチャットGPTで作成した原稿を読み上げたものです。いつもの私の話と比べてどうでしたか。違和感がありましたか。いつもと同じでしたか。あるいは、いつもよりよかったですか。

私は式辞の原稿作成に、納得するまで時間をかけています。正直なところ今回、チャットGPTが短時間でこれだけの原稿を作成したことに、ショックを受けました。改めてAIの進化は目覚ましく、現在ある職業の多くはAIにとって代わられると言われる現実を実感した次第です。尚、生成AI、チャットGPTについては、文科省のガイドラインに準じた先生方の注意に沿って対応して行ってください。

ここで一冊の本を紹介したいと思います。天童荒太さんの『君たちが生き延びるために』（ちくまプリマー新書）です。『悼む人』で直木賞を受賞した天童さんの作品には、命をテーマにした小説が多くあります。この新書は、天童さんによる母校の高校生に向けての講演がもとになっており、サブタイトルは「高校生との22の対話」です。私も校長という立場上、常日頃から中学生や高校生の心に響くメッセージを送りたいと思って行動したり、読書したりしていますが、天童さんの言葉の力には脱帽でした。高校生とのQ&Aは、きっと皆さんの心にも届くはずです。Q&Aの質問事項を少々、紹介します。「挫折の経験は人を成長させますか？へこんだ時はどうしたらいいですか？ぎりぎりだと感じている高校生に伝えたいことは？つらさをひとにどう伝えたらいいでしょう？自分の思いはどうすれば伝わりますか？困っている人の相談にはどう応じればいいですか？努力や才能より運の力のほうが大きいのか？だれでも幸せになれるか？夢を叶えるにはどんなことをすればいいですか？よりよい恋愛や結婚相手の条件ってありますか？……」。

どうですか。回答を聞いてみたいと思いませんか。読書の夏です。ぜひ読んでみて下さい。ここではQ&Aの1つ、「AI時代に人間はどうなっていくのでしょうか？」を紹介します。

AIが人間の仕事を奪ってしまう心配を、ときおり目にしますが、AIの使い方に対する誤解があるからだろうと思います。

わたしは、AIが、労働の末端ではなく、社会の中核、ことに政治や企業の意思決定の現場にこそ、どんどん入っていくべきだと考えています。

なぜなら、世界でずっと起きてきた危機的状況。戦争や紛争、核開発、差別的政策や暴力による弾圧、環境汚染や気候変動の問題、などなど……。

これらはみな、政治家（ときに軍人）という人間の、データや科学的エビデンスを考慮しない、自分や取り巻きや経済界の欲望・利益を優先したり……怒りや嫉妬や恐怖などの、感情のままに判断したりした……本来は避けられた悲劇です。

先日終了したアフガニスタンの戦争も、また新たに生じたウクライナでの戦争も、人間の感情や欲望による判断で始まったものです。結果として、多くのインフラ施設や住居や食糧や環境やお金……何よりかけがえのない大勢の人命が失われています。

AIに本来期待すべきなのは、科学的データと証拠に基づいて、想定される状況とリスク、かつ長期的スパンの経済的効果も考慮して、最も適している解答を導き出す点でしょう。

そこに人間の短絡的な感情や欲望、取り巻きたちのマネーや地位への執着、経済界のひいきを求める要求などは、入ってくる余地がありません。

わたしたちは、ミスすることの多い人間に、本来任せるべきではない、大勢の命に係わる判断を、ほかに方法がなかったために（AI がまだなかった、あるいは開発途中だったために）仕方がなかったとはいえ、任せてきてしまったと思います。

福島第一原子力発電所の爆発も、事前に入手できていたデータを、すべて AI に入力して、判断させていれば、きっと津波に対応できる高さの防波堤を作っておくことができ、いまにいたる問題はすべて起きていなかったでしょう。

では、人間は何をすべきなのか。何ができるのか。

人を愛することです。

パートナーを、子どもを、親や祖父母を、あるいは孫を、友人や仲間たちを、ときに困っている隣人を、直接は知らないけれど苦難にあえいでいる人を、愛することです。

愛するというのは、あえてわかりやすい言葉に言い換えると、自分がその人のために損することをいとわない、ということです。

その人のためなら、自分の大切な時間を削ることをいとわない。経済的に援助することも、ときには自分の血液や内臓の一部を提供すること、最終的には命を投げ出すことすらいとわない……それが愛です。

AI に、これはできません。人や社会が得をすることを考える機械だからです。損をすることなど考えたら、混乱するばかりでしょう。まして命を投げ出すことは不可能です。

これから皆さんは、より多くの人を愛するようになるでしょう。つまり人のために損することを覚えていくでしょう。

そこに人間の価値はあり、美しさはあり、幸せはあります。

穎明館生の皆さん、明日からの夏休み、文化祭の準備やクラブ活動で汗を流す人も多いことでしょう。目の前の、一つ一つの仕事や練習に集中してやり抜いてください。それは将来に向けて、愛する力を身につける訓練になっているのかもしれませんが。そうやって考えると、1学期に十分にできなかった勉強も、読書も、皆さんの愛する力を鍛えてくれる営みのようにも思えてきます。皆さんが、愛ある人間に成長していくことを心より期待しています。

6年生、37期生の皆さん、私の4月のHR行脚での激励を覚えていますか。今日の式辞の文脈でもう一度伝えます。「自分のために頑張れ。自分の愛する人のためにも頑張れ」。

以上、令和5年度第1学期終業式式辞といたします。